

緊急的・短期的な  
河川堤防の強化方策の方向性

# 緊急的・短期的な河川堤防の強化方策の方向性(案)

## (1) 基本的考え方

- 洪水時の**河川水位を下げる対策が基本**
- 水位低下対策を図ることが困難な箇所等に**危機管理**として実施
  - 越流した場合でも堤防が決壊するまでの時間を少しでも引き延ばすことにより避難までの時間の確保・浸水面積の減少等の減災効果を期待
- 越流した場合であっても**決壊しにくい「粘り強い堤防」**を目指す
  - 決壊しない堤防ではないことについて関係機関や地域・住民等の理解
- 維持管理の方法や下流側への影響等についても確認
  - 適切に維持管理するための方法、事業完了後の下流側の水位状況等の確認

## (2) 区間の考え方

- 決壊発生箇所の**場の特徴**の分析を踏まえて選定
  - 狭さく部、橋梁の上流部、合流部、湾曲部 などの影響を受け、水位が上昇しやすい事象が当面解消されない区間
  - 個別に河道計画上の位置づけや水理メカニズム、治水地形分類図などについての確認が必要

## (3) 対策工法の考え方

- 越水に対する危機管理性能に対して**一定の効果**を有すると考えられる資材・工法はあるが、それぞれに**課題**はあり、越水に対する実証的な検証や、河川堤防に求められる基本的な性能等に関して**検証が十分ではないものがある**
- このため、現場条件等も考慮しつつ、堤防に求められる基本的な性能、越水に対する危機管理性能として具備すべき事項等を踏まえ、**各資材・工法を比較検討することが必要**
  - 河川堤防に求められる基本的な性能に毀損がないことが前提
  - 経済性(コスト)、用地、維持管理の容易性、長期的な機能の保持(耐久性)などの必要な要件も考慮
- 効果のばらつきや壊れ方により変状の進行速度が大きく変わる等、予期せぬ変状が生じることがあることに留意が必要
  - 大型の水理模型実験等による確認等
- 現場施工**からフィードバックし**技術開発**に結びつける
  - 性能や施工性が見込めるものは積極的に活用して実証